

第VII欄 (iv) 発明者である旨の申立て (米国を指定国とする場合)

申立ては実施規則第 214 号に規定する以下の様式文書を使用して作成しなければならない。第VII欄と同様(i)~(iv)の備考の統合部分、及び本頁に特有の事項について第VII欄(iv)の備考を参照。この欄を使用しないときは、この用紙を顛書に含めないこと。

発明者である旨の申立て (規則 4.17(iv)及び 51 の 2.1(a)(iv))
(米国を指定国とする場合)

私は、特許請求の範囲に記載され、かつ特許が求められている対象に関して、自らが最初、最先かつ唯一の発明者である (発明者が 1名しか記載されていない場合) か、あるいは共同発明者である (複数の発明者が記載されている場合) と信じていることを、ここに申し立てる。

本申立ては、本章がその一部をなす国際出願を対象としたものである (出願時に申立てを提出する場合)。

本申立ては、国際出願 PCT/_____を対象としたものである (規則 26 の 3 に従って申立てを提出する場合)。

私は、特許請求の範囲を含め、上記国際出願を検討し、かつ内容を理解していることを、ここに表明する。私は、PCT 規則 4.10 の規定に従い、上記出願の顛書において主張する優先権を特定し、かつ、「先の出願」という見出しの下に、出願番号、国名又は世界貿易機関の加盟国名、出願日、出願月、出願年を記載することで、米国以外の少なくとも一国を指定している PCT 国際出願を含め、優先権を主張する本出願の出願日よりも前の出願日を有する、米国以外の国で出願された特許又は発明証の出願をすべて特定している。

先の出願：

私は、連邦規則法典第 37 編規則 1.56 (37 C.F.R. § 1.56) に定義された特許性に關し重要であると知った情報について開示義務があることを、ここに承認する。さらに、一部複数出願である場合、先の出願の日から一部複数出願の PCT 国際出願日までの間に入手可能になった重要な情報について開示義務があることを承認する。

私は、表明された私自身の知識に基づく陳述が真実であり、かつ情報と信念に関する陳述が真実であると信じることをここに申し立てる。さらに、故意に虚偽の陳述などを行った場合は、米国法典第 18 編第 1001 条に基づき、罰金、拘禁、又は両方により処罰され、またそのような故意による虚偽の陳述は、本出願又はそれに対する与えられるいかなる特許についても、その有効性を危うくすることを理解した上で陳述が行われたことを、ここに申し立てる。

氏名： 森田 みゆき

住所： 札幌市 日本国

(都市名、米国の州名 (該当する場合) 又は国名)

郵便のあて名： 〒002-8502 日本国北海道札幌市北区あいの里 5-3-1

北海道教育大学札幌校内

国籍： 日本国 JAPAN

発明者の署名： *Miyuki Morita*



口付： 25. 08. 03

(国際出願の顛書に発明者の署名がない場合や、規則 26 の 3 に基づいて国際出願の出願後に申立ての補充や追加がなされた場合)

理人ではなく、発明者のものでなければならない。)

氏名： 伊藤 潔

住所： 袖ヶ浦市 日本国

(都市名、米国の州名 (該当する場合) 又は国名)

郵便のあて名： 〒299-0265 日本国千葉県袖ヶ浦市長浦 580-32

三井化学株式会社内

国籍： 日本国 JAPAN

発明者の署名： *Kiyoshi Ito*



口付： 25. 08. 03

(国際出願の顛書に発明者の署名がない場合や、規則 26 の 3 に基づいて国際出願の出願後に申立ての補充や追加がなされた場合)

理人ではなく、発明者のものでなければならない。)



この申立ての統葉として「第VII欄(iv)の続き」がある